

最近増えている若年層女性

(30〜64歳)のがん

1年間に新たにがんと診断される人は年齢が上がることも増加。

男性では30代は人口10万人当たり77人だったのに対し女性は30代は182人と女性の罹患率は男性の約2.3倍だった。これは乳がんや子宮がんが20代後半から急増しているためで、30代では女性のかかるすべてのがんのうち乳がんと子宮がんが約60%を占めています。

1 乳がん

乳がんはいまや日本では年間3万5千人が罹患し、女性のがんの発症頻度では1番になっておりここ20年間では2.7倍と急増しております。発症年齢は40〜50歳代が一番多く、次に60歳代、30歳代の順です。35歳以下の乳がんは全体の7%で35歳を超えると発症率はグンと高くなります。いわゆる働き盛りに最も多く、年間約9000人

の方が亡くなっています。

乳がんになりやすい人

- ① 40歳以上
- ② 30歳以上で未婚
- ③ 出産経験がない、あるいは初産が30歳以上
- ④ 初潮年齢が早く閉経年齢が遅い(55歳以上)
- ⑤ 肥満(50歳以上で標準体重の+20%以上)
- ⑥ 家族(特に母、姉妹)に乳がんになった人がいる
- ⑦ 良性の乳腺疾患になったことがある

当てはまる項目の多い人は積極的に検診を受けてください。

マンモグラフィは触診では発見できない乳がんを微細石灰化像として発見できる長所があります。超音波検査は若年者のように乳腺組織の豊富な場合(授乳期など)

や触診では発見できない小さな腫瘤描出能に優れています。

2 子宮がん

日本では年間約7000人が罹患し約2400人が亡くなっています。ここ20年間の傾向としては20〜29歳2〜4倍と若年層の罹患率、死亡率も増加しております。

子宮がん(子宮頸がん)の原因はほぼ100%「ヒトパピローマウイルス(HPV)」です。日本人では特にハイリスクタイプ(16型、18型)で浸潤がんへの進展がみられやすいことがわかっています。

子宮頸がんになりやすい人

- ① 低年齢での初交
- ② 性的パートナーが多い
- ③ 多産
- ④ 他の性行為感染症
- ⑤ 喫煙
- ⑥ 経口避妊薬の使用

乳がんも子宮がんも早期発見、早期治療すれば、死亡率は低いがんです、そのためには積極的に検診を受けることが有効です。

(医師会)